

在宅医療・介護多職種連携協議会 多職種連携・情報共有システム部会 ～報告～

部会の目的

在宅医療に係る多職種連携の推進及び情報共有システムの効果的な活用について検討する。(試行WG, 試行WG評価チームの発展形)

- 症例を通じた多職種連携ルールを検討
- 好事例を基にした情報共有システムの活用方法の検討

令和3年度

第2回多職種連携・情報共有システム部会

(令和3年8月6日 Zoomにて開催)

報告事項

1. カシワニネットZoom連携について
2. カシワニネット活用促進の取組み
3. 令和3年度個人情報研修について
4. 現況届実施状況報告

議事（グループディスカッション）

1. 部屋開設のルール緩和
2. カシワニネット本人・家族参加について

第3回部会 2月14日（月） 19時～

1. 活用促進の取組の実施結果（進捗）報告，評価
2. 次年度に向けた取組みの方向性の検討

を予定

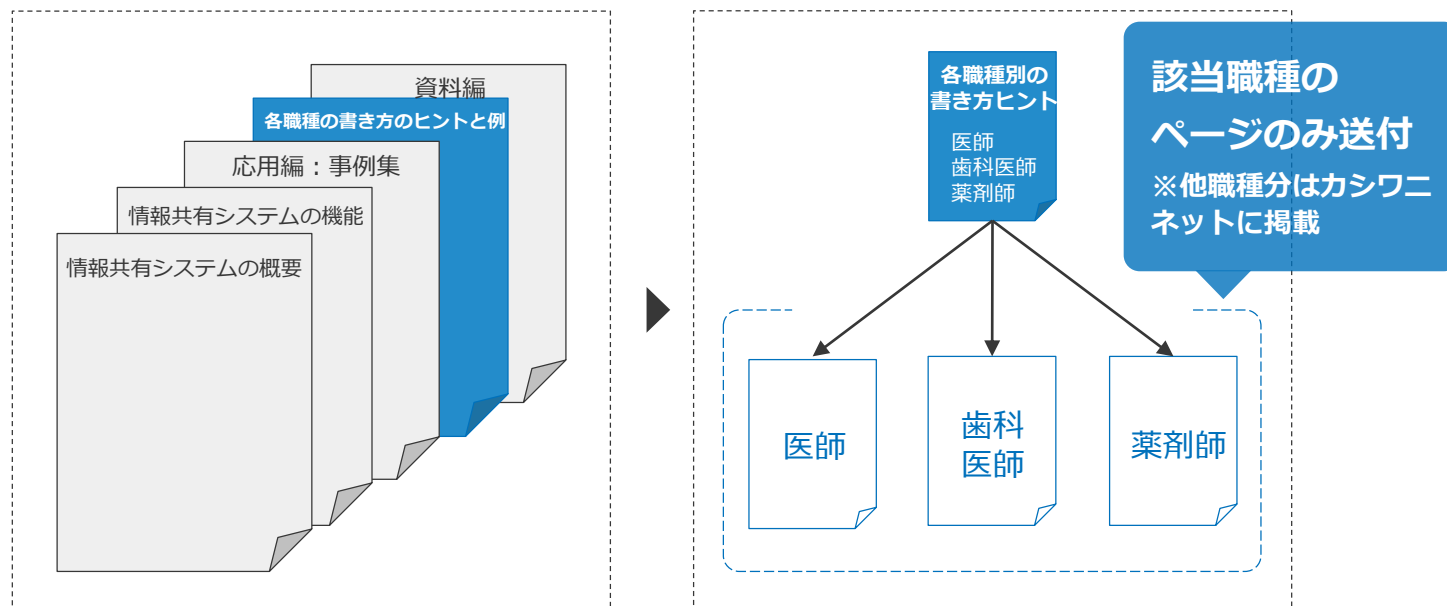
1. カシワニネット活用促進について

Zoom連携機能

- カシワニネット内の「柏市の重要連絡」とケアマネ・訪問看護の職能団体の部屋にて周知。⇒第3回の部会にて効果検証を報告。

運用マニュアルの一部改訂

- H28年度に作成した運用マニュアルを一部改訂。通常業務に即したメリットの打ち出しをする。



2. 現況届実施報告

回収状況及び現況確認に伴う I D 発行状況（※ 6 月末現在）

	発送数	回収数	回収率	I D 新規発行者	I D 削除者
令和 2 年度	441事業所	422事業所	95.7%	209人	162人
令和元年度	416事業所	394事業所	94.7%	132人	168人

※現況届送付後の2週間を比較…令和元年度 167件 令和2年度 **225件**

【結果】

- ・回収率、I D 新規発行者数は**昨年度より増加した。**
- ・押印の廃止・その他記載事項の廃止により、**早期提出に繋がった。**

未提出事業所に対する対応について

現状 再送付（2回目）の締切までに提出のない事業所については、電話催促。

来年度より…

再三の依頼を行っても未提出の場合は、個人情報観点から、部屋を一時的に閲覧不可にする設定を行う。（事前に手紙を送付）具体的な事務対応については、第3回の部会で報告予定。

3. 個人情報研修の実施について

今年度のトピックス

- 昨年度の試行実施の結果を踏まえ、**eラーニング**を本格導入
- 受講のしやすさ、受講管理のしやすさを目的に、**研修管理システムの活用**を検討

研修の概要

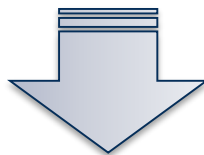
【目的】 カシワニネットの利用において、各職種が個人情報保護に対する意識と知識を高めること

【受講対象者】 カシワニネットを利用する全員

【実施時期】 年度内を予定

【コンテンツ】 すき間時間で受講できるよう、動画コンテンツを細分化

【受講促進策】 受講対象者全員への受講案内の配付、受講者の多い事業所への証の発行 など



評価

一人でも多くの利用者に受講してもらい、研修を契機に**適切な個人情報の取扱いを意識し、実践**してもらうことにつながったかを確認する。

4. カシワニネットルール緩和について

経緯

第1回連携協議会にて、カシワニネットのルール緩和について承認されたものの、改めてルール緩和の内容について、意見や期待する事をざっくばらんに共有し、今後のカシワニネットの活用促進につなげていくために意見出しを行ったもの。

ルール緩和がもたらす病院在宅連携の広がり

・日常の療養支援の場面から入退院支援での活用

病院発信での部屋作成が容易にできるようになるため、**病院と在宅双方向の連携強化**が期待される。

コロナの影響で利用者の状態や意向の確認がしづらくなる今、**カシワニネットを通じ、退院前から病院地域連携担当者－ケアマネ（訪問看護師）で入院中の利用者情報を共有し、在宅チームに繋げる等の方法が考えられる。**

部会員の意見

期待する事

- ・退院時からの情報共有
- ・退院時に情報が得られない時が多いため、情報共有できると事前調整も可能となり在宅医療に関わりやすくなる
- ・最初に病院地域連携担当者（MSW）が始動してくれるとやりやすい
- ・市境の事業所（松戸・流山等）参加で連携がスムーズになる

※病院と在宅の連携については、市内病院地域連携担当者連絡会議の事項で別途報告いたします。

5 - 1. カシワニネット本人・家族参加について

経緯

- 第1回連携協議会にて、**家族は支援者の一人との観点から家族のカシワニネットへの参加について柔軟な形をとれないか**意見有。部会での検討事項となった。

部会員の意見

- 意思決定や予後予測等を、病状の変化があった時・担当者会議等で共有している。
- 重要な事項であるため、電話・面談等の直接的なコミュニケーションがよい

なにを共有すべきか	いつ共有すべきか	ふさわしい手段
<ul style="list-style-type: none">ご本人・ご家族の意向予後, 予測 (特に終末期)支援計画排便コントロール	<ul style="list-style-type: none">病状の変化があった時支援者間である程度方向性が決まってから担当者会議 = 支援計画書作成時	<ul style="list-style-type: none">電話・面談 相手の反応を見ながら話したい。大切な話のため。LINE ただし本人・家族の同意がとれれば。

5 - 2. カシワニネット本人・家族参加について

他市の状況

- 自治体、医師会等でシステム管理している場合、本人・家族参加ほぼなし。

自治体名	本人家族参加	備考
野田市	△	一部家族参加有。 クリニックがシステム管理。
流山市	×	
松戸市	×	
我孫子市	×	

結論

- 本人・家族と多職種が共有すべき事項は、病状や体調、意向や予後予測に関わる非常にデリケートな内容であり、文字による伝達ではなく、相手の反応を見ながら話せる直接的なコミュニケーション手段がふさわしい。
- 本人・家族が参加するとなった場合、利用者が使用するハードウェアへのセキュリティ対策面で課題が生じる。
- よって、現段階においては、カシワニネットの本人・家族参加については、見送ることが望ましいと考える。